



ウズベキスタン と、珍味？

2023年2月に訪問したウズベキスタン日本センターでは、伍魚福に来社いただいたことがあるシュフラットさん(写真左)、また伍魚福に2回訪問いただいたダミールさん(写真右)とも再会できました。(株式会社伍魚福 代表取締役 山中勸)

PREXは途上国のよりよい発展のため、そして日本との交流促進のためにお役に立てるよう、今後も研修・交流事業に取り組みます。

海外から研修員を受入れて、関西の知見と技術を紹介する研修を実施してきたPREXですが、コロナ禍の影響で2020年3月から、2年以上の間、訪日研修が実施できませんでした。2022年の夏ごろから少しずつですが、来日するグループも増えてきました。2023年度は、日本の企業に学びたい海外の皆さんが、さらに来日することを期待しています。同窓生の中には、日本で多くの刺激と学びを得て、実際にそれを自分の国・企業で実践したいと思っている人々がたくさんいます。ぜひこれからも、PREXの研修事業へのご協力をお願いいたします。(PREX事務局)



食の安全で

『珍味』は、世界とつながっている。

株式会社伍魚福の山中勤です。当社は、珍味を極め、生産者や生活者、食品業界が良いスパイラルで回る起点になりたいと考え、2021年に「伍魚福ビックバン図」を作りました。この中に「世界平和」も入っています。今は、ビジネス面では「世界」と言うほどはつながっていませんが、研修での交流や、現地訪問の機会を得て、世界とのつながりを実感しています。

ウズベキスタンはシルクロードの交差点にあり、若い人が多く、これから成長する国です。親日な国で、ビジネスでの関係が薄いのはもったいないです。(ウズベキスタンでの日系企業数は21社、在留邦人数は百数十人のようです。)

ウズベキスタンの中で食品は重要産業と位置付けられています。ウズベキスタンの産官学が協力して、品質や衛生管理のしくみができれば発展につながると思います。僕らのレベルでできることはしているかもしれませんが、日本の中小企業の食品メーカーのノウハウがお役に立つこともあると思っています。

伍魚福で受け入れた研修員たちの国、ウズベキスタンを訪問しました。

当社を訪問する研修員の皆さんに親しみを感じていて、どんな国か、いつか訪問してみたいと思いつけていたのですが、2023年の2月に経済産業省主催「中央アジア官民ミッション」に参加。ウズベキスタンを訪問することができました。

フェイスブックでつながっていた研修員ともタイミングよく再会を果たし、日本からのお土産を渡せました。自分の中でウズベキスタンというと、お土産でいただく籠に入ったナッツやドライフルーツのイメージでしたが、実際訪問すると大都会で驚きました。タシケントのホテルからWi-Fiをつないで毎朝8時からの社内会議にも参加しました。コロナの経験でオンラインで仕事ができるようになっていたのが役立ちました。ミッションへの参加が決まり、JICAやJETROのサイトを調べたり、日本のウズベキスタン大使館の方やミッションに参加した方から話を聞き、また実際に訪問して、神戸で一番ウズベキスタンに詳しくなった気がしています。ウズベキスタンの大粒のレーズンをおつまみとして扱えないか、品質面を調査中です。



世界に貢献。

2022年12月、キルギスの皆さんと株式会社伍魚福 代表取締役社長 山中勲氏
委託元機関：株式会社リロエクスセル

日本とキルギスの友好のお役に立つ、という想いで。

一方、コロナ後、初めての海外からのお客様は2022年12月、キルギスからでした。キルギスからの訪問は、2017年以来5年ぶり。海外のお客様は2018年のモンゴルの方以来、4年ぶりでした。伍魚福の経営についてロシア語の逐次通訳をしていただきながら2時間お話しし、研究所を見学していただきました。「後継者はいるのか」「マーケティング担当はいるのか」「品質管理体制はどうなっているのか?」「協力工場での製造に関する決め事は?」「商品について家族の意見を聞くこともあるのか?」「商品企画の進め方は?」など、質問をたくさんいただき、時間が足りないくらいでした。特に経営理念や従業員を大切にしている取り組みに対する関心が高かったです。



経営理念「珍味を極める」を説明

ウズベキスタン日本センターのダミール・ムザファロフです。

2023年2月13日、代表団と共にウズベキスタン日本センター(UJC)を訪れた伍魚福の山中社長にお会いすることができました。UJCのビジネスコースの訪日研修で神戸の同社を訪問してから5年ぶりの再会でした。訪問当時の伍魚福の温かい歓迎とおもてなし、伍魚福の美味しい珍味、そしてもちろん経営についての講義は、私たち研修参加者全員に強い印象を与えたことを覚えています。私はここで伺った話やアイデアを、何千人ものウズベキスタンのビジネスコース受講者に伝え、日本のビジネス企業の成功の原動力や日本のビジネス文化についてよりよく理解してもらってきました。山中社長には、素晴らしい再会とウズベキスタン日本センターへの訪問に感謝の意を表します。



株式会社 伍魚福(神戸市長田区、高級珍味の製造販売 従業員80名)

2022年度日本経営品質奨励賞、ひょうごプラチナ成長企業受賞。

2006年からウズベキスタン、キルギスやモンゴルの研修員の企業訪問を受入。経営理念やビジネスモデル、マーケティングやPOPの考え方等をお話しいただいている。



キルギスのIT産業をけん引するアジスさん

キルギスの同窓生アジス・アバキロフさんからの案内で2022年10月、JETRO大阪で開催されたセミナー「投資・提携先としてのキルギスIT産業～新たなフロンティアと人材の魅力～」に参加しました。

アジス・アバキロフさんは、私がPREXの仕事を通じてできた大事な友人の一人。若いうちからキルギスでIT企業「ユニーク・テクノロジーズ」を起業し、キルギスのIT産業をけん引してきたおひとりです。

中央アジアの周辺の国に比べて国土も狭く、地下資源なども限られるキルギスにとって、人が一番の財産だと考えたアジスさんは、人材の力で国を発展させたい、若者がキルギスで働ける産業を育てたい、という熱い思いを抱いて、IT企業の団体「キルギス・ソフトウェア開発協会」を創設し、IT企業が集積する「ハイテクノロジー・パーク」の設立もけん引してきました。さらにはIT人材の育成が大事だと考え、教育機関もスタートさせるなど、描いた夢に向かって、エネルギッシュに前進し続けています。

そして私たちにとって何よりも嬉しいのは、常に日本との関係を忘れずに大事に思ってくれていることです。アジスさんの夢の1つだったという、日本での「キルギスITセミナー」が叶ったのも、これまで常に前進してきたからこそ、だと思います。この日のセミナー終了後、「キルギスのIT産業振興の取組は、成功事例と言えると思います。研修事業を通じた人材育成・キルギスの発展につながるよい事例ではないですか！」とセミナーの主催者であるJETROの方からも声をかけてもらいました。

アジスさんが研修に参加されたのは、10年以上前の2009年。そこでの学びや研修員間の関係性はしっかりと根付き、キルギス国内のIT産業の振興という形で芽吹き、いま花を咲かせていることを実感しました。

この日のアジスさんの、キルギスのIT産業の可能性を熱く語る姿に、日本でキルギスという国、そしてキルギスのIT産業がさらに認知されるよう、私も関わり続けたいと思いました。

(国際交流部 瀬戸口)



カイゼンのチカラを、カザフスタンに。

3Sに取り組むカザフスタンのサヤットさん

皆さん、カザフスタンがどこにあるか、ご存じですか。日本からソウル経由で、7.5時間、日本の7倍の面積があり、人口は1,700万人（日本の7分の1）です。首都は、ヌルスルタン。

日本のJICAの支援で建築家の黒川紀章氏が設計した未来都市です。

テルミベコフ・サヤットさんが勤めているMARDEN社は、2006年に設立されたオフィスビルの管理や清掃などをおこなう会社です。従業員は1,200名で、2012年から社内でカイゼン活動を導入し、日ごろからカイゼンに関する勉強会などを積極的に実施しています。

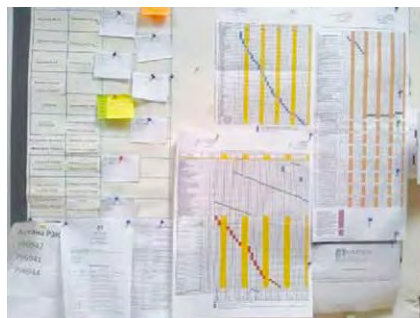
そして、社員は、カザフスタン日本センターのカイゼン研修に多く参加しています。

サヤットさんは、MARDEN社のサービス技術部・エンジニアです。ムダの削減やコストの最適化等の課題を解決したいと考え2015年度のJICA「中央アジアビジネス実務研修」（訪日研修）に参加しました。講義や企業訪問を通じ、カイゼンや5S・3S活動について実際に見聞きし理解を深めました。帰国後は、TQC活動や社内研修会を実施し、カイゼン活動のリーダーとして活躍しています。

帰国後に導入したカイゼン活動と訪日研修時のサヤットさん



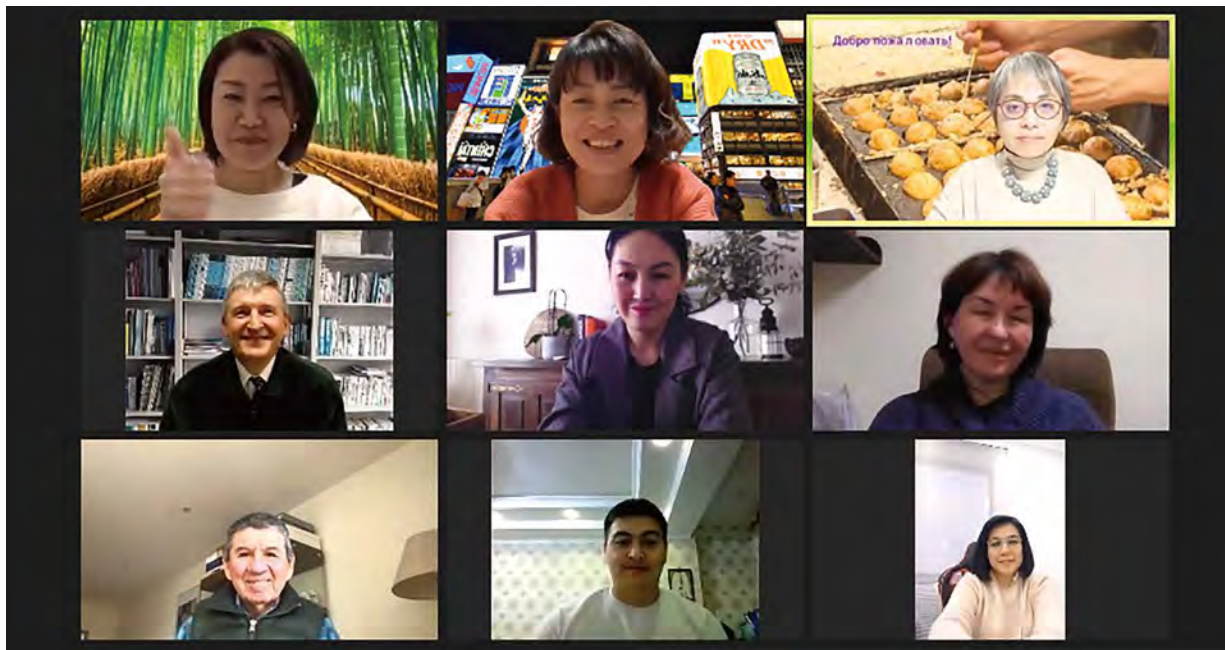
提案が見えるボード



5分間ミーティング・ボード



研修了書を手にするサヤットさん



中央アジア研修同窓生への フォローアップセミナーをオンラインで開催しました。

2022年2月に始まったウクライナへの軍事侵攻は、PREXのメンバーにとって大きな衝撃でした。私自身もロシアやウクライナは仕事を通じて知人もいて親近感を持つ国だっただけに、日々ニュースで流れてくる現地の状況に焦燥感や無力感を感じていました。そして、PREXグローバルネットワークメンバー（PREXの同窓生組織）の間では、一人ひとりの顔の見える関係性を確認しあいたいと強く思いました。顔の見える関係性は、その人と、その人のいる国・地域に対する理解や親しみにつながるはずで

そこで、中央アジア地域のPREXグローバルネットワークメンバーを対象に「PREXグローバルネットワークテーマ別フォローアップセミナー」を実施しました。

当日は、ロシア出身のアンドレイ・ペロフ教授（福井県立大学）と、キルギス出身の起業家ナズム・バイボスノフさん（アリエンタ社 代表）に話題提供者として参加いただき、その後はメンバー間での自己紹介、意見交換を中心に進めました。

2つのブレイクアウトルームに分かれて、メンバーにファシリテーターを担当してもらい、ペロフ教授、バイボスノフさんも参加して、お二人のお話を受けての理解の共有、中央アジアと日本との関係、中央アジア域内での連携についてなど、とても活発なディスカッションとなりました。

PREXはロシアやウクライナだけでなく、中央アジアからも多くの研修参加者を迎えています。これらの国々を対象にした研修はロシア語で実施してきました。ロシア語はユーラシア大陸の「地続きの国」の人々を「つなぐ」ものだと思っています。この日の参加者からも『ロシア語でコミュニケーションできるのは、自分たちの強みであり、知り合えたのをきっかけにこれからのビジネスでも連携や協力ができる』というコメントもありました。世界情勢はあまりにも複雑で、先が読めない時代です。だからこそ、PREXは研修が終わった後もPREXグローバルネットワークメンバーの間での「顔の見える」関係性を維持し続けることを大事にしていきたいと思

（国際交流部 瀬戸口）

～PREXグローバルネットワークテーマ別フォローアップセミナー（中央アジア）～

★日程：2022年12月14日

★参加者：PREXグローバルネットワークメンバー 3カ国12名

★参加国：ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス

★話題提供者（敬称略 順不同）

○福井県立大学 経済学部教授 アンドレイ・ペロフ氏 ○アリエンタ社 代表 ナズム・バイボスノフ氏



研修の意義を深めたい。 JICA関西センター 木村です。

日本、特に関西地域において、2025年は節目の年だと思っています。4月から10月にかけての大阪・関西万博に加え、1月には阪神・淡路大震災から30年を迎え、夏頃には第9回アフリカ開発会議(TICAD9)が開催されます(開催都市未定)。これらの機会を通じ、日本と海外との関係、中でも社会課題に共に取り組む関係を深めることが、その先の関西・日本にとって重要と考えます。

具体的には、防災、感染症、少子高齢化、食料・気候変動問題、言論の自由などの「普遍的価値」の共有、など、個々人の日常に影響を与えながらも、一国だけの取り組みでは太刀打ちできない課題に取り組む関係の強化です。個々の機会を有機的な縁の拡大に繋げることが肝要で、縁を広げ、深める上で、その要諦は、人と人との信頼関係にあると思っています。

JICAは、日本の政府開発援助(ODA)の一元的な実施機関として、「信頼で世界をつなぐ」をビジョンに掲げ、新興国・開発途上国のインフラ整備や人材育成などに協力しています。関西センターが展開する事業の柱の一つが「研修」を通じた人材育成で、PREXには長きに亘って様々な研修の実施にご協力頂いています。

ところで、本稿をお読みの皆様は、「研修」と聞いて何を想像されますか?社内研修、スキルアップ研修などが一般的ですが、JICAの研修事業は、「知見の共有」と「縁つなぎ」にその意義があると思っています。2週間程度から3年近くまで様々なコースがあり、参加者は概ね相手国の行政官を中心とする中堅リーダーです。想像して下さい。海外での研修に公費で2週間から3年近くに亘って参加する同僚を。紛れもなく、選りすぐりの幹部候補、中堅リーダーが日本に来られ、研修後に数年経つと中央官庁の局長や次官、中には閣僚になられた実績もあります。海外での研修は、全キャリアの中でも殆どの方は1回、多くても3~5回程度でしょう。その期間中に知見・経験を共有する機会は、特別なものです。特別な機会に特別な関係を築けた温かい記憶は一生もので、個々の人と人との関係が、新たなビジネスの機会を生んだり、国と国の関係をぐっと近づけます。

コロナ禍の行動制限が緩和される中、節目の2025年に向けて、国内の企業、自治体、大学、NPO等の皆様と共に、事業を通じて国内外の縁を広げていきたいと思っています。一生ものの日本ファン、関西ファンを増やすべく、共に取り組ませて下さい。

独立行政法人 国際協力機構(JICA)関西センター 所長 木村出

新型コロナの位置づけが5類になり、ようやくリアルでの交流が再開できるようになりました。PREXがある大阪国際交流センターでもシンポジウムなどの催事が増え、訪れる人が多くなり1階ロビーのPREX展示コーナーをリニューアルしました。研修事業の意義を少しでも多くの方に知ってもらえたら嬉しいです。PREXへのお問い合わせやご意見、「PREX NOW」へのご意見・ご感想をお待ちしています。 E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

2023年度、JICA研修は、遠隔と訪日をセットで実施します。

2020年3月から、2年以上の間、研修参加者が来日できずオンラインで遠隔研修を実施してきました。2022年の夏ごろからは、海外との往来再開を受け、訪日研修・海外渡航が可能になりました。2023年度は、PREXで受託する全ての研修が訪日研修に戻る予定です。また、訪日研修の前段階に「遠隔研修(オンライン・オンデマンド)」を実施し、来日前に学習や準備をしてもらうことで、理解の促進を目指します。

	遠隔研修	訪日研修	海外	計
2021年度	9件	0件	0件	9件
2022年度	5件	9件	1件	15件
2023年度	14件予定		—	14件予定

←3年間の
研修数の推移

(2023年5月現在)

ベトナム ドンナイ省 人民委員会から 表彰状を授与されました



2022年11月29日、ベトナムのドンナイ大学において「ベトナム国ドンナイ省における『ものづくり』人材育成事業フェーズ2」の閉会式が行われ、ドンナイ省人民委員会から当財団に表彰状が授与されました。

この事業は、3Sおよび安全など日本型モノづくりの基礎を学ぶためのカリキュラムや指導法を現地教育機関に移転し、現地でのものづくり基礎力のある人材育成ができるようになることを目指して2014年度から実施してきました。
(写真左端がPREXの専務理事 岡本)

カザフスタン日本センターの同窓生から 研修実施の依頼がありました

カザフスタン日本センターはカザフスタンのビジネス人材育成の拠点となっています。その職員でありPREXの同窓生でもあるエリカ・アリンベコヴァさんからの提案で、カザフスタンの企業経営者など



11名が参加する「カイゼンセミナー」の一部をPREXが受託することになりました。そして5月の2日間、大阪の企業2社への訪問と京都での文化理解プログラムを実施しました。カザフスタンから、参加者負担で訪日し開催されるセミナーを受託するのは今回が初めてです。

写真: 関西クラウン工業社を訪問した研修員

おススメ本の紹介 SDGs 再生紙が できるまで



刊行:2023年1月
(岩崎書店)

企業訪問に協力いただいている山陽製紙さんが子供用の写真集「紙大接近!工場見学SDGsリサイクル編」で紹介されています。再生紙ができるまでの様子や、SDGsとの関係がよく分かります。ぜひご覧ください。

参加者募集中! ベトナム人リーダー育成研修

2023年度もベトナム人リーダー育成研修(6~7月)、ベトナム人社員向けオンライン基礎研修(11月)を実施します。ベトナム人社員の皆さんがさらに成長できる場として、ぜひご活用ください。



詳細はこちら→



PREX NOW第272号(2023年6月発行)
編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事:岡本 謙
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850
ウェブサイト: <https://www.prex-hrd.or.jp>
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作: ユナイテッド・トゥモロー